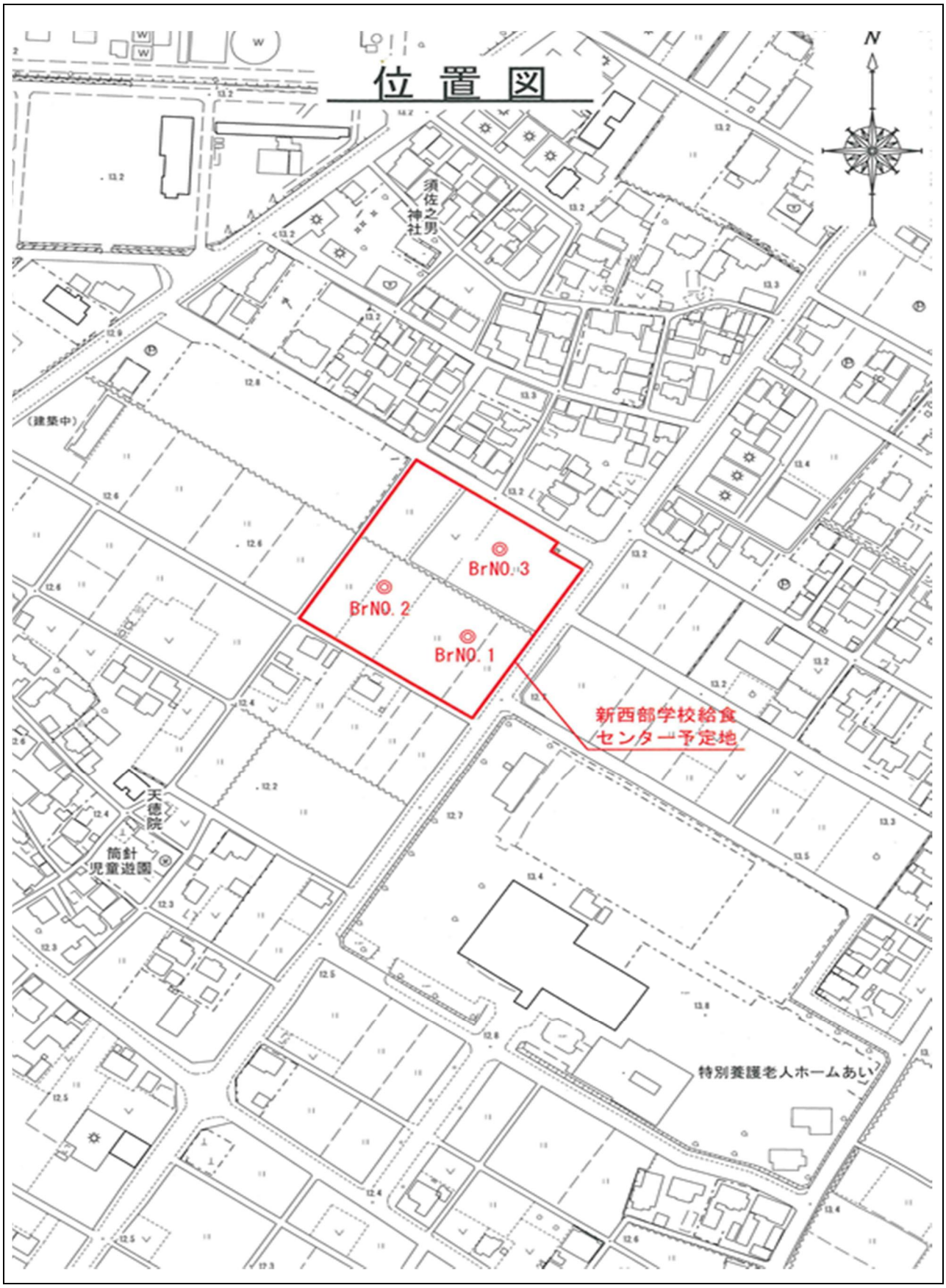

位置図
N
須佐之男神社
(建築中)
BrNO. 3
BrNO. 2
BrNO. 1
新西部学校給食センター予定地
天徳院
簡針児童遊園
特別養護老人ホームあい

図　調査位置図

ボーリング柱状図

参考資料５　地盤調査結果

調　査　名	新西部学校給食センター造成用地調査業務
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	No.1	調査位置	愛知県岡崎市筒針町　地内					北緯	34° 57’ 4.9111”
発注機関	岡崎市			調査期間	令和 2年 11月 4日 ～ 2年 11月 6日			東経	137° 8’ 16.3777”
調査業者名	葵コンサルタント株式会社 電話（0564-22-7058）	主任技師	石川仁司	現場代理人	石川仁司	コア鑑定者	河野弘之	ボーリング責任者	早川哲史
孔口標高	H=12.41m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	
総掘進長	27.37m								

試錐機	カノーKR05H型	ハンマー落下用具	半自動型
エンジン	NFD9型	ポンプ	カノーV6型

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	8.31	4.10	4.10		砂質粘土	暗灰褐～灰褐～暗灰		軟らかい～非常に軟らかい	上部は、農耕土。含水は、中～大位。砂は、細砂～微細砂が主体である。又、部分的にシルト分が多く混入する。GL-2.05～4.10m間は、比較的均質な粘土である。	11/4 1.57
	7.61	0.70	4.80		シルト質細砂	暗灰	中ぐらい		含水は、小～中位。砂は、比較的均一である。	
	5.31	2.30	7.10		粗中砂	暗灰	中ぐらい		含水は、中～大位である。全体に少量のシルト分が見受けられる。不均一な砂である。	
	4.46	0.85	7.95		シルト混じり砂	灰	中ぐらい		含水は、中位。砂は、中～細砂が主体である。	
	3.81	0.65	8.60		砂質シルト	暗灰		中位	含水は、小位。粘性は、中位。	
	0.51	3.30	11.90		シルト質細砂	暗灰	緩い～中ぐらい		含水は、中位である。砂は、細砂が主体である。又、比較的均一である。又、全体に、シルト分が混入する。GL-11.20～11.90m間は、砂分が多く見受けられる。	
	-1.49	2.00	13.90		粗中砂	淡灰	中ぐらい		含水は、中～大位である。砂は、中砂が主体である。又、全体に、少量のシルトが見受けられる。	
	-1.89	0.40	14.30		シルト質細砂	暗灰			含水は、小位。砂は、細砂が主体である。	
	-2.54	0.65	14.95		砂質シルト	暗灰			含水は、小位。粘性は、小位。	
	-3.49	0.95	15.90		シルト混じり中細砂	淡灰	中ぐらい		含水は、中～大位である。砂は、細砂が主体である。又、部分的に粗砂が混入する。	
	-3.89	0.40	16.30		粗中砂	灰			含水は、中～大位。少量の細粒分が混入する。	
	-5.94	2.05	18.35		シルト混じり中細砂	淡灰	中ぐらい		含水は、中位である。砂は、比較的均一である。	
	-6.54	0.60	18.95		砂質シルト	暗灰			含水は、中位。全体に細砂が混入する。	
	-7.99	1.45	20.40		シルト混じり中細砂	暗灰	中ぐらい		含水は、中位である。砂は、細砂が主体である。又、部分的に粗砂が混入する。不規則にシルト分が混入する。	
	-8.69	0.70	21.10		砂礫	淡灰			含水は、大位。礫は、φ30mm位の亜角～角礫が点在する。	
	-10.44	1.75	22.85		シルト質細砂	灰	中ぐらい		含水は、中～大位である。砂は、細砂が主体である。又、部分的にφ2～3mm程度の細礫が点在する。不均一な砂である。	
	-14.96	4.52	27.37		シルト混じり砂礫	淡灰	密な～非常に密な		含水は、中～大位である。礫は、φ2～50mm位の亜角～角礫が主体である。又、部分的に30mm位に採取される。マトリックスは、細砂～中砂である。GL-24.60m付近から礫が多く、良く締まっている。	

標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1	1	1	3/30	3
1.45 / 2.15		1/15	1/15	2/30	2
2.45 / 3.15	1	1	1	3/30	3
3.45 / 4.15	4	5	6	15/30	15
4.45 / 5.15	4	5	5	14/30	14
5.45 / 6.15	4	5	5	14/30	14
6.45 / 7.15	6	7	8	21/30	21
7.45 / 8.15	1	2	3	6/30	6
8.45 / 9.15	3	3	4	10/30	10
9.45 / 10.15	2	3	3	8/30	8
10.45 / 11.15	5	7	7	19/30	19
11.45 / 12.15	6	6	7	19/30	19
12.45 / 13.15	6	6	5	17/30	17
13.45 / 14.15	3	2	3	8/30	8
14.45 / 15.15	6	7	8	21/30	21
15.45 / 16.15	9	8	9	26/30	26
16.45 / 17.15	7	7	7	21/30	21
17.45 / 18.15	2	3	2	7/30	7
18.45 / 19.15	6	7	7	20/30	20
19.45 / 20.15	6	7	10	23/30	23
20.45 / 21.15	8	9	10	27/30	27
21.45 / 22.15	7	7	8	22/30	22
22.45 / 23.15	19	11	12	42/30	42
23.45 / 24.15	18	16	19	53/30	53
24.45 / 25.15	24	36		60/20	90
25.35 / 26.15	26	34/9		60/19	95
26.34 / 27.15	20	31	9/2	60/22	82
27.37					

原位置試験 深度(m)	試験名および結果

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
				11/4
				11/5
				11/6

27

−14.96

4.52

27.37

27.15

27.37

20

31

9/2

60/22

82

11/6

ボーリング柱状図

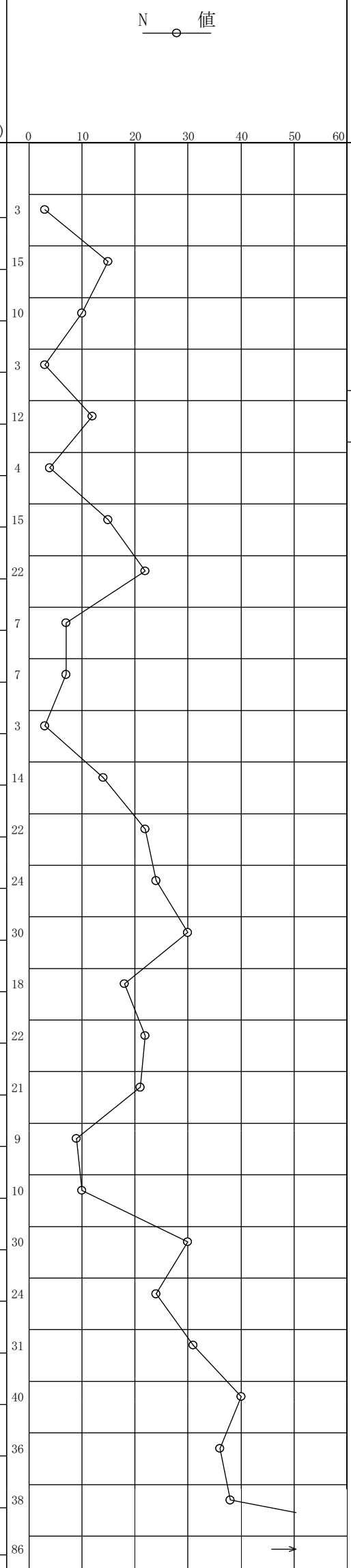
参考資料５　地盤調査結果

調査名	新西部学校給食センター造成用地調査業務
事業・工事名	
ボーリングNo	
シートNo	

ボーリング名	No.2	調査位置	愛知県岡崎市筒針町　地内			北緯	34° 57’ 5.4154”
発注機関	岡崎市			調査期間	令和 2年 11月 9日 ～ 2年 11月 12日	東経	137° 8’ 14.987”
調査業者名	葵コンサルタント株式会社 電話（0564-22-7058）	主任技師	石川仁司	現場代理人	石川仁司	コア鑑定者	河野弘之	ボーリング責任者	早川哲史
孔口標高	H=13.10m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機：カノーKR05H型 / ハンマー落下用具：半自動型 / エンジン：NFD9型 / ポンプ：カノーV6型
総掘進長	30.45m								

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1	11.30	1.80	1.80		砂質シルト	暗灰褐		軟らかい	上部は、耕作土（砂質シルト）である。又、全体に微細砂が多く混入する。含水は、中位である。粘性は、中～大位である。	11/9 1.86
2	9.80	1.50	3.30		礫混じり砂	淡灰褐	中ぐらい		含水は、中～大位である。礫は、φ2～10mm位の細礫が点在する。	
	9.40	0.40	3.70		シルト混じり細砂	灰			含水は、中位。砂は、細砂～中砂が主体である。	
4	8.95	0.45	4.15							
	8.35	0.60	4.75		粗中砂	淡灰			含水は、中位。少量の細粒分が混入する。	
5					砂質粘土	暗灰		軟らかい	含水は、中位。粘性は、大位である。砂は、微細砂が主体である。	
					シルト質細砂	暗灰	中ぐらい		含水は、中位。砂は、微細砂が主体である。比較的均一である。	
6	6.90	1.45	6.20							
	6.30	0.60	6.80		シルト質粘土	暗灰		軟らかい	含水は、中位。粘性は、大位である。	
7					シルト質細砂	暗灰	中ぐらい		含水は、中位。上部は、シルト分が多く見受けられる。	
	5.20	1.10	7.90							
8	4.40	0.80	8.70		粗中砂	淡灰	中ぐらい		含水は、中位。少量のシルト分が見受けられる。又、部分的に細砂が混入する。	
9					シルト質細砂	暗灰	緩い		含水は、中位。全体にシルト分が混入する。又、比較的均一である。	
10	2.20	2.20	10.90							
11	1.30	0.90	11.80		シルト	暗灰褐		軟らかい	含水は、中位。粘性は、中位である。比較的均質なシルトである。	
12	0.40	0.90	12.70		シルト質細砂	暗灰褐	中ぐらい		含水は、小～中位。GL-12.30～12.70m間は、砂分の割合が多く見受けられる。	
13	-0.85	1.25	13.95		粗中砂	灰	中ぐらい		含水は、中～大位である。少量のシルト分が見受けられる。	
14					シルト混じり中細砂	淡灰	中ぐらい		含水は、比較的多い。砂は、細砂が主体である。又、部分的に粗砂が混入する。	
15	-2.60	1.75	15.70							
16	-3.10	0.50	16.20		砂質シルト	暗灰			含水は、中位。比較的均質なシルトである。	
					シルト質細砂	淡灰			含水は、中位。砂は、細砂が主体である。又、中砂が見受けられる。	
17	-4.00	0.90	17.10							
18					シルト混じり中細砂	淡灰	中ぐらい		含水は、中～大位である。少量の粗砂が混入する。	
	-5.50	1.50	18.60							
19	-6.10	0.60	19.20		礫混じり砂	淡灰			含水は、中位。砂は、粗砂～細砂である。少量のシルト分が混入。	
	-6.65	0.55	19.75		シルト	暗灰			含水は、中位。粘性は、中位。	
20					シルト質微細砂	淡灰	中ぐらい		含水は、中位。全体にシルト分が見受けられる。	
	-7.65	1.00	20.75							
21					礫混じり砂	淡灰	中ぐらい～密な		含水は、中～大位である。礫は、φ5～40mm位の角礫が点在する。又、GL-21.95～22.80m間は、礫分の割合が少ない。少量のシルト分が混入する。	
22										
23	-10.50	2.85	23.60							
24					砂混じり砂礫	灰	密な		含水は、小位である。礫は、φ2～40mm位の亜角～角礫が主体である。又、Max φ70mm位の礫が点在する。マトリックスは、細砂である。又、礫分が不規則に混入する。礫径もバラバラに混入する。	
25										
26	-13.55	3.05	26.65							
27							非		含水は、中位である。礫は、φ2～4	

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	1	3/30	3
1.45–2.15	4	5	6	15/30	15
2.45–3.15	4	3	3	10/30	10
3.45–4.15	1	1	1	3/30	3
4.45–5.15	3	4	5	12/30	12
5.45–6.15	2	1	1	4/30	4
6.45–7.15	4	5	6	15/30	15
7.45–8.15	7	7	8	22/30	22
8.45–9.15	2	2	3	7/30	7
9.45–10.15	2	3	2	7/30	7
10.45–11.15	1	1	1	3/30	3
11.45–12.15	4	5	5	14/30	14
12.45–13.15	7	7	8	22/30	22
13.45–14.15	8	8	8	24/30	24
14.45–15.15	9	10	11	30/30	30
15.45–16.15	5	6	7	18/30	18
16.45–17.15	6	7	9	22/30	22
17.45–18.15	7	7	7	21/30	21
18.45–19.15	4	3	2	9/30	9
19.45–20.15	3	4	3	10/30	10
20.45–21.15	10	10	10	30/30	30
21.45–22.15	7	8	9	24/30	24
22.45–23.15	9	10	12	31/30	31
23.45–24.15	17	13	10	40/30	40
24.45–25.15	12	13	11	36/30	36
25.45–26.15	13	11	14	38/30	38
26.45–27.15	19	38	3/1	60/21	86
27.36					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果
4.80	孔内水平載荷試験
5.80	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
				11/9
				11/10

27											27.15	19	38	3/1	60/21	86																			
28				砂礫	淡灰	非常に密な		含水は、中位である。礫は、φ2～40mm位の亜角礫～角礫が主体である。又、Max φ50mmが、採取される。推測では、φ125～150mmが点在する。マトリックスは、細砂～粗中砂が主体である。			27.36 28.15	22	38		60/20	90																			
29	-16.75	3.20	29.85								28.35 29.15	16	29	15/4	60/24	75																			
30	-17.35	0.60	30.45	礫混じり砂	灰	非常に密な		含水は、中位。砂は、粗砂～細砂が主体である。			29.39 30.15	15	17	20	52/30	52																		11/11	
											30.45																								

ボーリング柱状図

参考資料５　地盤調査結果

調　査　名　新西部学校給食センター造成用地調査業務

事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

ボーリング名	No.3	調査位置	愛知県岡崎市筒針町　地内						北緯	34° 54’ 6.4483”
発注機関	岡崎市			調査期間	令和 2年 10月 29日 ～ 2年 11月 4日				東経	137° 8’ 16.841”
調査業者名	葵コンサルタント株式会社 電話（0564-22-7058）	主任技師	石川仁司	現場代理人	石川仁司	コア鑑定者	河野弘之		ボーリング責任者	早川哲史
孔口標高	H=12.74m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機	カノーKR05H型
総掘進長	30.45m								エンジン	NFD9型
									ハンマー落下用具	半自動型
									ポンプ	カノーV6型

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（）	掘進月日
1					砂質シルト	暗灰～暗灰褐～暗灰		軟らかい	上部は、砂質シルト（農耕土）。含水は、中位である。全体に、シルト分が多く混入する。又、所々に砂質シルト状に採取する。粘性は、中～大位である。	10/30 1.82	1.15	1	1	2	4/30	4						
2											1.45 / 2.15	1	1	1	3/30	3			2.15 / 2.45	3-2	⊖	粒度、液性、塑性	
3											2.45 / 3.15	1	1	1	3/30	3							
4	8.64	4.10	4.10								3.45 / 4.15	3	4	5	12/30	12			4.15 / 4.45	3-4	⊖	粒度、液性、塑性	
	7.89	0.75	4.85		シルト質細砂	暗灰	中ぐらい		含水は、少ない。砂は、微細砂が多く含まれる。		4.45 / 5.15	5	5	6	16/30	16							
5					粗中砂	灰	中ぐらい		含水は、中～大位である。砂は、比較的均一である。又、GL-6.00m以深から中砂が多く見受けられる。GL-6.80～7.10m間にφ2～15mmの亜角～角礫が点在する。		5.45 / 6.15	4	5	5	14/30	14			6.15 / 6.45	3-6	⊖	粒度	
6											6.45 / 7.15	5	6	7	18/30	18							
7	5.64	2.25	7.10								7.45 / 8.15	5	5	5	15/30	15							
	4.14	1.50	8.60		シルト混じり砂	灰	中ぐらい		含水は、中～大位である。砂は、中～細砂が主体である。又、所々に粗砂が混入する。		8.45 / 9.15	1	1	1	3/30	3							
8											9.45 / 10.15	1	1	2	4/30	4							
9					シルト質粘土	暗灰		軟らかい	含水は、中～大位である。粘性は、大位である。比較的均質な粘性土である。		10.45 / 11.15	5	6	7	18/30	18			11.15 / 11.45	3-11	⊖	粒度、液性、塑性	10/30
10	2.09	2.05	10.65								11.45 / 12.15	6	6	7	19/30	19							
	0.84	1.25	11.90		シルト質細砂	暗灰	中ぐらい		含水は、中位。砂は、比較的均一である。		12.45 / 13.15	7	7	7	21/30	21							
11											13.45 / 14.15	1	1	1	3/30	3			14.15 / 14.45	3-14	⊖	粒度	
12	-1.31	2.15	14.05		シルト混じり中細砂	灰	中ぐらい		含水は、大位である。砂は、細砂が主体である。又、所々に粗砂が混入する。		14.45 / 15.15	6	8	9	23/30	23							
13											15.45 / 16.15	8	9	9	26/30	26							
14	-1.91	0.60	14.65		シルト混じり砂	暗灰		軟らかい	含水は、大位である。砂が、部分的に多く混入する。		16.45 / 17.15	8	9	9	26/30	26							
15	-3.06	1.15	15.80		礫混じり砂	灰	中ぐらい		含水は、中位。砂は、細砂が主体である。又、φ2～15mm位の亜角～角礫が点在する。少量のシルト分が混入する。		17.45 / 18.15	2	3	5	10/30	10			18.15 / 18.45	3-18	⊖	粒度、液性、塑性	
16					シルト混じり中細砂	灰	中ぐらい		含水は、中位。砂は、細砂が主体である。又、所々に粗砂が混入する。少量のシルト分が混入する。		18.45 / 19.15	2	1	2	5/30	5			19.15 / 19.45	3-19	⊖	粒度、液性、塑性	
17	-4.96	1.90	17.70								19.45 / 20.15	3	2	3	8/30	8							
18	-5.86	0.90	18.60		シルト質細砂	暗灰	緩い		含水は、中位。GL-18.35m以深からシルト分の割合が少ない。		20.45 / 21.15	9	9	11	29/30	29							
19					砂混じりシルト	暗灰		中位	含水は、小位である。粘性は、小位。全体に細砂が不規則に混入する。		21.45 / 22.15	12	11	12	35/30	35							
20	-8.16	2.30	20.90								22.45 / 23.15	7	6	7	20/30	20							10/31
21					礫混じり砂	暗灰	中ぐらい～密な		含水は、中～大位である。砂は、粗中砂が主体である。又、φ2～25mm位の亜角～角礫が点在する。		23.45 / 24.15	6	6	10	22/30	22							
22	-10.21	2.05	22.95								24.45 / 25.15	6	6	7	19/30	19							
23					粗中砂	淡灰	中ぐらい		含水は、中～大位である。砂は、中砂が主体である。又、少量のシルト分が混入する。		25.45 / 26.15	1	7	10	18/30	18							
24	-11.91	1.70	24.65								26.45 / 27.15	16	22	22/7	60/27	67							
25					粘土質砂礫	淡灰	中ぐらい		含水は、中～大位。礫は、φ2～30mm位の角礫が主体である。マトリックスは、細砂である。礫の混入が不規則に混入する。又、GL-26.10～26.25m間に粘土分が多く混入する。		27.42												
26	-13.86	1.95	26.60																				
27	-14.36	0.50	27.10		砂礫	淡灰			含水は、大位。礫は、10～50mm位の角礫が主体である。														
					シ																		

27	-14.36	0.50	27.10		砂礫	淡灰			含水は、大位。礫は、10～50mm位の角礫が主体である。
28 29 30	-17.71	3.35	30.45		シルト混じり微細砂	暗灰～灰	非常に密な		含水は、小～中位である。砂は、微細砂が主体である。比較的均一である。 又、全体に、シルト分が多く混入する。 GL-29.00m以深から含水は、中位である。又、シルト分の割合が少なくなる。

27.15	16	22	22/7	60/27	67
27.42 28.15	18	23	19/4	60/24	75
28.39 29.15	15	17	19	51/30	51
29.45 30.15	16	18	20	54/30	54
30.45					

11/2